

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教会報

174号 2016年3月27日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂

1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

巻頭言

「愛の人、パウロのように」

——フィレモンへの手紙 9～10 節——

協力牧師 松下 恭規



年老いて、今はまた、キリスト・イエスの囚人となっている、このパウロが。監禁中にもうけたわたしの子オネシモのことで、頼みがあるのです。(新共同訳聖書)

新約聖書の中に、「フィレモンへの手紙」と云う一通の手紙が収められております。

それは、紀元前 62 年ごろに、当時、ローマの獄中に囚われていた使徒パウロが、小アジアのコロサイ教会の信者フィレモンに宛てて書いた短い手紙であります。その内容は、わたしたちにとって大変興味深いものであります。

その手紙の中で、パウロは一人の逃亡奴隷オネシモという人間の新しい人生について、フィレモンに特別な願いを述べております。

この手紙から推察すると、オネシモは、フィレモンの奴隷でありましたが、しかし、なにか悪いことをして、主人のもとを逃げ出し、ローマに来て偶然（まさに、お導きによって）パウロに出会ったようであります。

以前からフィレモンと親しい関係にあり、

また、彼の信仰の指導者であったパウロはこのオネシモを導いて、これまでの生き方を十分に反省させ、新しい人間として、もとの主人のところに送り返そうとしました。



その時、彼にたずさえさせたのが、この「フィレモンへの手紙」であります。

この「フィレモンへの手紙」には伝道者パウロの深い愛と信仰があふれています。

彼はすでに年老い、その上、信仰上の迫害によって、牢獄につながれている身でありました。しかし、彼は、自分自身のことについては、何一つ不満や愚痴をこぼさず、一人の悔い改めた人間の新しい人生のために、熱意をこめてこの手紙を書いているのです。

パウロは手紙の中で、オネシモを「わたしの子供」と呼んでおり、彼をフィレモンのもとに送り帰すにあたっては、「もはや奴隷としてではなく、奴隷以上のもの、愛す

る兄弟として受け入れてほしい、と願っている。そして、もし、フィレモンに対して、「なにかの負債がオネシモにあるなら、それを自分に負担させてもらいたい」とさえ述べているのです。

この手紙を受けたフィレモンは、もちろんオネシモをパウロの願い通りに受け入れたに違いありません。

今から、1900年ほど昔に書かれたこの手紙が、聖書の中に納められ、人々の心から心へと大切に伝えられてきたその理由は、それほどまでに、パウロを生かしたキリストの愛ゆえでありましょう。

ところで、わたしはある本に面白い、興味深いことが書いてあるのを読みました。

それは仏教の本であります、仏教用語はわたしたちが用いていることばと、しばしばあべこべの意味で用いられている、とのことでもあります。

一つ例をあげると、「無分別」という言葉がありますが、わたしたちは普通これをあまりよい意味には解さないと思います。ところが、実は、このことばは、「分別するのは凡夫の性であって、菩薩の心は分別と離れている。」つまり、「無分別」の心を悟りの知恵としている、と云うのです。

この場合の「無分別」とは、わけへだてをしない、という意味のようであります。

昔、良寛の庵に、一人の旅人が訪ねてきた。良寛は旅人の足を洗う水を器に入れてきた。やがて、湯をわかし、お茶をいれ、そして、夕餉を出し接待した。

翌朝、洗顔の水を運んできた。旅人はここまで来て、ふと気が付いた。皆、同じ器ではないかと。

そこで、おそろおそろ尋ねてみた。とこ

ろが、そうだ、というのである。これ一つしかないからね、と。そして、またその器で朝粥を作り始めたというのです。

どのような人に対しても、「無分別」をめざす良寛は、一つの器を、一つのものに価値を付けず、これをいろいろと用いて愛したという話です。

これは、少々ゆきすぎだと思いますが、今日のわたしたちは、「分別」をしすぎているか、と思います。

あの子はよい子、あの子は悪い子、あの人は有能な人、あの人は無能な人、と。

そして、深い愛を持って人を見ることをやめてはいないか。

主イエスの愛の眼差しに生かされてパウロが、オネシモを愛したような生き方を、私たちもまた、絶えず祈り求めたいものがあります。

集会出席統計(月平均)

	2016年	
	1月	2月
主日礼拝	83.2人	86.5人
聖書と祈り会	15.5人	17.0人
教会学校*	94.8人	92.3人

* 保護者、教師を含む

	1月3日	2月7日
聖餐夕礼拝*	10人	8人

* 第1主日開催

家庭集会

美根 明子

私が初めて家庭集会に参加させていただいたきっかけは、橋本縫子さんがご自宅の家庭集会にお誘いくださったことからでした。まだ教会に親しい方がいない頃でしたので、私のような者が参加しても良いのだろうかと恐る恐るお訪ねしましたが橋本さん始め出席者の皆様が歓迎してくださりとでもうれしかったことを覚えています。

同居していた母が年老いて留守番が出来なくなり、私の主日礼拝出席さえも難しくなった時期がありました。母も一緒に参加できる家庭集会を我が家でもさせていただけたらと思いお願いいたしました。自宅での集会には母も何度か参加しました。楽しそうでした。

現在、家庭集会は赤木康子さん宅、林華子さん宅、松本美奈子さん宅それに私の自宅と月一回当番制で持たれています。参加者は約10人程です。毎月第3金曜日の午後1時30分より2時間程が予定されております。但し美根の当番時は例外的に午前10時30分からの始まりです。讃美歌を歌い、聖書の一書を何回かに分けて輪読いたします。今は「テモテへの手紙二」を読んでおります。渡邊牧師が聖書の説き明かしをしてくださいます。質問をし、答えてくださる時間があって、最後に教会の「今月の祈りの課題4つ」を心の内に祈り「主の祈り」を皆で唱えます。その後はお茶とお菓子をいただきながら聖書のことは勿論ですが、教会生活や教会暦の中で思っていることなどを質問したり考え合ったりいたします。渡邊牧師のお考えをも親しく伺えることは幸いです。

柿ノ木坂教会が2009年に無牧であったころ、赤木康子さんを中心に信徒だけで聖書輪読と「信徒の友」による学びをして家庭集会を続けてこられました。家庭集会を絶やしてはいけないという信仰によるご努力があったからだと思います。

その頃私は親の介護を理由に全く協力していなかった事を申し訳なく恥ずかしく思います。

教会のはじまりが小さな家庭集会からだったという教会のお話を聞いたことがあります。

又、砲撃激しい戦時下の沖縄で、あるクリスチャンの婦人は鶏と聖書讃美歌だけを持って山に逃れました。一緒に逃れた婦人達と不自由な生活の中で小さな礼拝を守ったそうです。その後男性も加わるようになりました。戦後は収容所に入れられましたが礼拝は続けられ、やがて幾多の困難を乗り越えて教会が生まれました。後に人が鶏と聖書しか持たなかった事を聞くと「鶏が卵を産んでくれるから、あとは聖書さえあれば何もいらないでしょう。」とおっしゃったそうです。

家庭集会が身近な伝道場であり、祈りの場であり、教会への理解を深める場となればと思います。週報にその月の家庭集会の当番者の名前が記されます。教会にいらして間もない方も、初めての方も参加してくださいとうれしいです。聖書をもっといねいに読んでみたいと思っている方や教会に質問したいことのある方は特に歓迎いたします。話し合い、牧師のお話を伺って、祈り合いましょう。



「恵風寮にて」

桐村 文子

◇詩編 23 編 1～3

主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない。

主はわたしを青草の原に休ませ

憩いの水のほとりに伴ひ

魂を生き返らせてくださる。

◇「讚美歌 21 57 番「ガリラヤの風かおる丘で」

ガリラヤの風かおる丘で

ひとびとに話された

恵みのみことばを

わたしにも聞かせてください。

恵風寮は、毎年、年度始めに配られる「教会総会、議案、報告書」に必ず出てきます。婦人会の活動のところでした。私は故犬養年子婦人会長のお誘いで何うまで何も知りませんでした。南支区教会婦人會社会部 社会グループ活動記録と云う手書きの古いガリラヤの資料をいま読むと、1965年頃から先輩方は伺っていたらしいのですが、1970年、私が初めて愛隣會に伺った折は、今は無い愛隣會診療所の奥の部屋で、食器消毒と包帯巻きを致しました。まだ奉仕の部所が定まらず、若葉寮で封筒の宛名書きや、つくろい物をしたこともございました。やがて柿ノ木坂教会は第4月曜日、恵風寮ときまり、昔の木製の大きな兵舎をそのまま利用した恵風寮へ通うことになりました。定員男女計100名。此処は成人？の軽度精神薄弱の方のための施設でした。昔の大きな内務班を仕切り、畳を敷いて10名ほどが1班で先生が1人ついていらっしやいました。そのひと部屋を奉仕の日はお借りして、主につくろい物をいたしました。故戸井百合子姉、故土師ちえ姉とご一緒したときの昼休み、愛隣會の理事長で恵風寮の寮長でもあった佐藤茂先生がおいでになって、「愛隣會はおのれのごとく隣人を愛せよと云うキリスト教の教えに従って経営しているが、残念なことに職員にクリスチャンがいない。先ず資格が

問題となる職場なので、資格が優先して、ひる休み、礼拝の集いをこころみだが、誰も集まらず企画倒れとなり、残念です。」となげいておられたのを忘れられません。

社会福祉法人愛隣會（目黒区大橋2丁目19番1号）は、平成27年12月現在、恵風寮をふくめて10施設13事業を運営していますが、戦前の近衛輜重兵連隊のあと地を下賜され、利用しているのです。戦前、この台地は陸軍のもので、私の長兄は、すぐ隣に在った砲兵隊から、「自走砲中隊」を率い、フィリピンにわたり、左腕を失い、ジャングルに移り1945年6月末、餓死しております。

二年近く休んで、第4月曜日にまた伺いましたら、兵舎のおもかげなく、現在のかるやかな建物になり、トイレも水洗に変わっていました。財源は広い運動場の一部を売っていいと云う事で、そこは国民年金基金による「こまばエミナース」という建物が出来ていました。

生徒さんの部屋では危ないので、奉仕の針仕事は、生活棟の中の面会室を貸していただけるようになりました。（現在は別棟の作業棟の一隅に移動。）寄付のミシンはすべて古く、動かたくないのをだましだまし名人芸で使って居ります。故土師ちえ姉は殊にむずかしい男物のズボンのファスナーの修理を自宅に持ち帰り、時間をかけて直してお届けくださっていたのをあとで知りました。鈴木定姉、故山口道子姉は娘時代、和裁のお稽古をなさったと思われる仕立上手でしたし、故水島ミエ姉は個人的に、火曜日の製菓班も手伝っておいででした。生活棟が出来てからは、田園調布教会の方も加わり、洗濯、アイロンかけ、つくろいもの、食堂の掃除、卓布洗い、やかんミガキ、茶碗のシブとり、天井の扇風機の分解掃除、なんでもいたしました。朝、10時から午後3時まで。残業も時々。

当時は学生のように寮生の方たちは、季節ごとの春・夏・冬のお休みを自宅に帰られましたので、休みあけは新品の、洋服の寸法合わせが沢山ございました。寮生の方とお話する機会も多うございました。赤ちゃんのとき拾われたので…と先生が、ためらいがちにおっしゃったY子ちゃんは、帰るところがなく、休みあけはわけもなく、なんとなく気分があらぶるので鉄は目につくところに置かない！と云うのが私たちのしきたりでした。知人の教会員の方は、「お休みに帰宅したとき、食事の感謝の祈りだけは教えるけれど、次に帰って来たときは忘れてるのよ」と残念がっておいででした。

この頃、目黒区にもボランティア制度が出来て、係をしていた知人から連絡があり、すすめられてボランティア登録をいたしました。

「S52年5月12日 登録番号11番」と云うのが、私の番号です。(1~10番欠番?)

のちにこの番号で、200回近く、特別養護老人ホームで、所謂、ホーム喫茶をひらくことになるとは、夢にも思いませんでした。

愛隣会のもとの運動場あとに出来た、国民年金中央会館「こまばエミナース」は、大ホール、結婚式場もあるホテル形式の施設でしたので、奉仕に伺う私たちにとって重宝な所となり、おひる休みを利用して抜け出し、この食堂を利用して、奉仕者仲間の他教会の方々と、ささやかな誕生日祝をひらいたりいたしました。

愛隣会創立50周年記念式典も、この大ホールでひらかれました。平成10年2月24日午前11時~12時、常陸宮殿下、同妃殿下ご来臨、私も南支区婦人部代表として出席致しました。一人ひとり呼び出されて感謝状を頂くのかと思いましたが、あとでまとめて一枚でしたので、コピーして皆様にくばり、本物は作業室にかざらせて頂きました。白寿荘と云う、昔の養老院のおばあさま方は、全員着物で、どこで用意したのか、黒の紋つきの羽織

を羽織って、大ホールの入り口に並び、宮様をお出迎えしたのが圧巻でした。

表彰状と云えば、10年に1回位宛、南支区婦人部を、愛隣会から申告して下さるのか、東京都社会福祉大会から頂いた表彰状が何枚か作業棟にかざってございましたが…。

こまばエミナースは、その後、経営不振だったのか、3年前に売られて、マンションに変わってしまい、ほんとうに残念です。

恵風寮の寮生の方々は、先生方によれば、あんまり病まないで、2、3日でなくなってしまわれるとのことでしたが…、Y子ちゃん(私たちは、“ちゃんづけ”で呼んでいました)も、いつの間にかなくなっておりました。

呼び名も、精薄から知的障害者、指定障害者と変わって来たように、待遇も変化して来て、絵がとても上手だったN君も独立してアパートを借りてパートに出ていらっしやる…とか方針が変わりました。柿の木坂一丁目にもグループホームが出来たのを御存知ですか? 私の家がどちらかと云えば近いので、毎日夕方5時に、炊飯器のスイッチを入れて…と頼まれたことがございますが…。つれあい倒れたり、私も検査入院をしたりする身分なので残念乍らおことわり致しました。

「アンちゃんが、アンちゃんが…」とお休みごとに洋服を買って下さったお兄様も、なくなられたのか? A子ちゃんもお休みに家へ帰ることもなくなりました。70才近いと存じますが…お髪が一寸白くなりつつあるほか、一寸も変わらない可愛い方です。今日も無心にガラスのビーズに糸を通してネックレスを作っておいでです。

恵風寮へ伺うと、こういう方々を主人公とした、田村一二先生著「手をつなぐ子等」1944年 京都 大雅堂発行 国立国会図書館蔵(戦後、映画にもなりました)を思い出します。

私の心の中に、いまも生きている25才の兄、南十字星を見てくると云って出かけたまま帰って来ない兄が、生前唯一企画・編集した本なので。在主。

「幸せという感情」

日野 葵

私はクリスチャンホームで育ったわけでは
ありませんが、幼稚園のときからずっとこの
柿ノ木坂教会に通っています。

幼稚園がベテル幼稚園だったので教会に行
くことには何の抵抗も感じませんでした。そ
して、神様という存在は当たり前でした。神
様の話を聞くことができるのは教会と幼稚園
だけで、家では神様のこともあまり考えま
せんでした。当たり前だったから、あまり深
く考えなかったのかもしれませんが。

実は、ベテル幼稚園に行きたい、絶対ここ
がいいと自分から選んだわけではありませ
んでした。そもそも、幼稚園を自分で選ぶ
という人はあまりいないと思いますが、ベ
テル幼稚園に通い始めたのはただの偶然で
はないと思うのです。なぜなら、幼稚園受
験をしたからです。塾にも通いました。た
くさん学校に行き受検をして、その中で
ベテル幼稚園と出会いました。今思えば、
私がベテル幼稚園に入ったのは必然だっ
たのかもしれませんが。

小学校は、公立の小学校に入りました。そ
の間ずっと教会に通っていましたが小学
校6年間、教会に行きたくないという感
情は浮かんできませんでした。

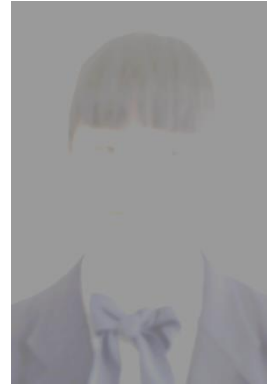
中学受験をして、玉川聖学院に入りました。
玉川聖学院は第一志望でしたが、自分の
できる範囲でいいか、と思っていたので
玉川聖学院に入ったのは、正直行きたく
なかったからではありません。それまで
意志が弱かった私ですが、今は、心から
玉川聖学院に入ってよかったと思ってい
ます。自分の意志で玉川聖学院高等部
に入り、大学受験に向けて日々精進し
ています。高校には尊敬する先生がた
くさんいて、同級生にも尊敬できる
人がたくさんいて、1日1日がとても
充実した毎日となっています。

自分の今までをこうして振り返ると、
私は神様のお導きによって計画通り歩
んできた、と思えてなりません。幼
稚園も中学校も高校もキリスト教で
プロテスタント、しかも教会と中
学、高校はつながりがあります。今
まで支えてくださった先生方や友
達、たくさんの方の出会いに感謝
します。

小学校まで教会に行くことが当たり前
でしたが、中学生になって初めて「教会
に行かない」という選択肢を知り、
誘惑に負けてしまったときもあり
ました。土曜日の部活で疲れ、宿
題が多くて夜遅くまで起きていると
朝起きるのがつらくなってしまい、
教会に行きたくないと思ったこと
が何回もありました。教会には長
く通っているし、神様は信じてい
るけれどクリスチャンホームでも
ないし…。と思っていたその心は、
中学2年生のとき、学校のJキャン
プの説教で一気に強くなりました。
神様についてたくさんのお話を聞
いて、聞けば聞くほど、すごいな、
とずっと知りたくなりました。洗
礼というものを知って、少し興
味はあったもののなかなか勇気
が出ず誰にも言えないモヤモヤ
した気持ちは心に募っていくば
かりでした。

それから2年が経ち高校1年生の夏、
私の学校はキャンプがたくさんあ
って、どれに参加しようか迷って
いたとき、部活の同級生全員で
バイブルキャンプに行こう、とい
うことになりました。

バイブルキャンプでは、普段聞く
ことのできない先生方の証や、
生徒と先生が混ざって



食事をするなど、先生方との関わりがたくさんあった気がします。バイブルキャンプではたくさんの出会い、発見がありました。1人で聖書を読んで神様と向き合う時間ではまだ知らなかった自分と出会い、食事のときは知らない先生と出会い、仲の良い友達の新たな発見、一つ一つが新鮮でとても楽しかったです。そして何よりも、講師として来てくださった吉澤恵一郎牧師との出会いはとても大きかったです。先生のお話しは大変わかりやすく、毎回の説教がとても楽しみだったのを覚えています。ある日の説教で、私は洗礼を受けようと決心しました。吉澤先生の一言が、私を洗礼に導いたのです。「幸せという感情は

神様によってつくられたのです」この言葉が、心に深く響きました。それまでのモヤモヤした気持ちがすっかり無くなり、かわりに、洗礼を受けたいという気持ちでいっぱいになりました。「幸せ」という感情が大好きで、その感情を神様がつくられた、そのことを聞いたときに私は覚悟しました。

私の信仰を支えてくださったベテル幼稚園の先生方、玉川聖学院の先生方、柿ノ木坂教会の先生方、そして渡邊牧師、渡邊牧子姉、吉澤恵一郎牧師に心から感謝します。教補の渡邊牧子先生のご指導の下頑張っていきたいと思っておりますので、これからよろしくお祈りします。

☆☆☆教会の行事予定☆☆☆

(定例行事は除く)

◇3月27日(日) 10:00～復活日(イースター) 礼拝、午後愛餐会。

◇4月10日(日) 主日礼拝後、2016年度定期教会総会。

◇5月15日(日) 10:00～聖霊降臨日(ペンテコステ) 礼拝。

―――2016年 キリスト教一致祈禱週間 東京集会―――

去る1月17日(日) 午後、日本キリスト教協議会(NCC)とカトリック東京教区合同主催の「2016年キリスト教一致祈禱週間・東京集会」が、旗の台にある聖公会三光教会(写真右)で開かれました。この一致祈禱集会は、全世界で持たれている祈りの一週間です。NCCからカメラマンを頼まれ、撮った写真をお目にかけます。



聖公会の礼拝様式に則り、鐘の連打の後、三光教会の神崎司教、カトリック東京教区の幸田司教、日本キリスト教協議会議長小橋牧師により、ロウソク(世の光)、聖書(みことば)、塩(地の塩)が祭壇に運ばれ、礼拝が始まりました。司式者の小橋牧師の祈りと会衆の祈りが交互に交わされ(写真左端)、



聖公会聖歌や讃美歌が歌われ、神崎司教による聖書朗読(右上左)、幸田司教による説教がありました(右上右)。献金は、今年の祈禱週間のために祈りを準備したバルト海に面するラトビア国の教会のために捧げられました。

礼拝後、教会の会館でお茶の会が開かれ、各教派の方々と懇談する機会がありました。(井澤)

今月のメッセージ

—3月のホームページ巻頭言から—

ホームページもご覧ください

<http://kakinokizaka-church.com>

少し進んで行って地面にひれ伏し、できることなら、この苦しみの時が自分から過ぎ去るよ
うにと祈り、こう言われた。「アッパ、父よ、あ
なたは何でもおできになります。この杯をわた
しから取りのけてください。しかし、わたしが
願うことではなく、御心に適うことが行われま
すように。」

(新共同訳聖書・マルコによる福音書

第14章35～36節)

先日、教会で葬儀がありました。十分な年齢
を既に迎えておいでではありませんでしたが、
召される数時間前まで健常にしておられただけ
に、突然の逝去は、ご家族にはにわかに入
れ難いことであったと思われました。わたした
ちが死を受入れるに時間的な猶予がある場合も、
逆に全くない場合もあります。葬儀について準
備をしておくこともできれば、全く備えがない
場合もあります。その中で、いずれにしても愛
する者の死を迎え葬るための準備をしてゆか
なくてはなりません。

この葬りの式の一連の祈りの中で繰り返し
覚えてゆくことは、主なる神に委ねる、とい
うことであろうと思います。わたしたちがもう手
の施すことのできない故人のすべてを、神に委
ね、わたしたち自身のこれからをも、神に委ね

る思いをわたしたちに内に創ってゆくこと。そ
して、そのようにして悲しみの中から神を賛美
するに至るということではないか、と思います。
葬儀においても福音が語られ、御言葉によって
慰めを受けることが必要です。このことが成る
ようにと、差し迫る短い準備の中で、牧師は語
るべき言葉を求めてゆきます。

ゲッセマネの祈りと呼ばれる、主イエス・
キリストの祈りは、主が十字架を負われる直前
に祈られた祈りです。主は、祈りにおいて十字
架という最も大きな苦しみを除かれることを願
われました。しかし、その祈りは、最後に、主
の願われることではなく、父なる神の御心が成
ることの祈りに着地します。このとき、主は、
御自身のすべてを神に委ねられることを祈られ
ました。

この主の祈りゆえ、主が十字架を負って
くださったゆえ、わたしたちもまた、父なる神に
すべてを委ねることができるようにされたので
す。悲しみも、喜びもすべてを神の御手から
いただきます。愛する者が召され悲しみの中
にある家族に慰めを、新しい道に希望と不安
をもって歩みはじめようとする幼子たちに励
ましを、わたしたちは主の救いを知らされて
いる者たちとして祈ります。

(牧師 渡邊 義彦)

——編集後記——

- ・震災から5年目。被災教会、地域再建のため
に祈ります。
- ・先号で紹介したように、クリスマスに若い受
洗者が与えられました。執筆していただいた
証を通し、神の恩寵を思わずにられません。
- ・今号の巻頭言は松下協力牧師をお願いいた
しました。いつまでもお元氣でご指導いただ
けることを願います。
- ・教会の大切な集りの一つ、家庭集会につ
いて書いていただきました。これからも祈り
の内に続きますように。
- ・教会報へのご意見・ご感想を編集委員
まで、お寄せください。(K.I)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時
入門講座 日曜日 午前9時30分
教会学校 日曜日 午前9時
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)
*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分

日本基督教団 柿ノ木教会
〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-31-19
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)
牧師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規